

IV 資 料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会場など、学内外で利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学 10 周年を迎えたことを記念し建設された施設で、1 階が学生支援センターと就職支援室、2 階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員又はそれらが関与する団体などが使用する施設とされています。

1 平成 29(2017)年度施設利用状況

開館日（293 日） 利用日（271 日） 利用率 92.5%

2 施設別の利用状況

施 設 名	利用件数	利用率	備 考
交流センター	多目的ホール	173	59.0%
	会議室	152	51.9%
	和室	212	72.4%
凌 雲 会 館	会議室AB	140	47.8%
	共同研究室	99	33.8%
	IT教育支援室	6	2.0% *行事日以外は学生に開放

3 行事別の利用状況

施 設 名	学内行事 ＊1	講座等 ＊2	教員関連 ＊3	学外行事 ＊4	部活動
交流センター	多目的ホール	20.2%	37.0%	11.0%	28.9%
	会議室	17.1%	-	5.3%	76.9%
	和室	2.4%	-	0.9%	6.1%
凌 雲 会 館	会議室AB	90.0%	-	6.4%	0.7%
	共同研究室	76.8%	-	22.2%	1.0%
	IT教育支援室	83.3%	-	16.7%	-

* 1 学内行事；短期留学生研修、教員採用試験対策、教職員対象の研修等

* 2 講 座 等；英語講座、中国語講座、韓国語講座等

* 3 教員関連；自主講座、ボランティア養成講座等

* 4 学外行事；高等教育コンソーシアム、他団体研修等

平成 29(2017)年度 地域貢献部会 開催実績

	開催日時	開催場所	主 な 議 題
第 1 回	平成 29 年 4 月 20 日(木) 11:00~12:00	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H28 計画実績報告 H29 計画 ・H29 自主講座開設許可申請 ・H29 後期開放授業科目 ・ひらめき☆ときめきサイエンス事業 ・H29 宮崎市学術研究振興助成事業 ・公民館講座
第 2 回	平成 29 年 5 月 23 日(火) 13:10~14:00	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 定期公開講座 ・H29 後期開放授業 ・H29 語学講座 ・公民館講座
第 3 回	平成 29 年 6 月 27 日(火) 13:10~14:15	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 自主講座追加募集 ・H29 開放授業アンケート ・H29 定期公開講座実施アンケート ・台風等の講座取扱 ・ケーブルテレビ放送 ・H30 公民館公座意向確認
第 4 回	平成 29 年 8 月 9 日(水) 13:10~14:30	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H29 自主講座開設許可申請 ・H29 定期公開講座アンケート ・台風等の定期公開講座取扱 ・地域との連携状況アンケート ・H29 後期開放授業申込状況
第 5 回	平成 29 年 9 月 12 日(火) 10:30~12:00	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携状況アンケート ・H29 計画進捗状況 ・中央西地区協議会との協議報告 ・宮崎ケーブルテレビとの協議報告
第 6 回	平成 29 年 11 月 27 日(月) 13:10~14:25	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・定期公開講座 ・開放授業取扱・計画案 ・公開研究発表会 ・ひらめき☆ときめきサイエンス事業
第 7 回	平成 29 年 12 月 15 日(月) 13:10~14:10	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 計画案 ・定期公開講座 ・地域との連携状況アンケート ・日経グローカルランキング ・定期公開講座放送
第 8 回	平成 30 年 1 月 30 日(火) 13:10~14:00	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 前期開放授業 ・H29 計画実績暫定報告 ・H29 語学講座実施報告 ・H30 語学講座計画
第 9 回	平成 29 年 3 月 6 日(火) 10:30~11:05	研究講義棟 504 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・H30 定期公開講座 ・第 3 期事業計画

V 付 錄

新 聞 掲 載 記 事 一 覧

	掲 載 日	掲 載 紙	見 出 し
1	平成 29 年 6 月 28 日	宮崎日日新聞	外所、口蹄疫に学び備えを 公立大講座
2	平成 29 年 7 月 2 日	宮崎日日新聞	若者投票率高めて 公立大「ライツ」委員委嘱
3	平成 29 年 7 月 14 日	宮崎日日新聞	歩廊
4	平成 29 年 8 月 6 日	宮崎日日新聞	正しい英語発音ソフト使い学習 公立大で小学生向け教室
5	平成 29 年 10 月 27 日	宮崎日日新聞	サツマイモお菓子開発 公立大生学園祭で販売へ
6	平成 30 年 1 月 22 日	宮崎日日新聞	学生ら「投票行って」 宮崎市商業施設で選挙啓発
7	平成 30 年 1 月 28 日	宮崎日日新聞	若者意見政治に反映を 大学生啓発でもり立て

平成 29 年(2017 年) 6 月 28 日(水)

宮崎日日新聞社提供



■ 地域防災 ■

宮崎公立大（有馬晋作学長）の自主講座「宮崎における『災害文化』の醸成—外所地震と口蹄疫を事例に—」は

24日、宮崎市の大同大学交流センター多目的ホールであつた。学生ら51人が参加。関西大学社会学部の黒田勇教授（放送文化論）が、災害の記憶を共有し、伝承する「災害文化」について語った。

黒田教授は1662年に日本向灘を震源として起きた外所地震の供養碑を、同市の住民が50年ごとに建て直していることに注目。「犠牲者を悼む気持ちが次の震災に備える気持ちを継続する」と指摘した。三陸海岸に残る「津波でんでんこ」の言い伝えや阪神大震災の復興を願って作られた歌が節目で歌われるなど、被災地で伝承される事例も紹介した。

本県で2010年に発生した口蹄疫について、地元メディアが畜産業に与える影響などを題材に、県民の問題と

外所、口蹄疫に学び備えを

■ 講座 ■

黒田教授は1662年に日本向灘を震源として起きた外所地震の供養碑を、同市の住民が50年ごとに建て直していることに注目。「犠牲者を悼む気持ちが次の震災に備える気持ちを継続する」と指摘した。三陸海岸に残る「津波でんでんこ」の言い伝えや阪神大震災の復興を願って作られた歌が節目で歌われるなど、被災地で伝承される事例も紹介した。

して報じたことに触れ、「地域メディアの役割は『私たち』をつくる情報の提供」と助言した。
(南村知宏)

平成 29 年(2017 年) 7 月 2 日(日)

宮崎日日新聞社提供

選挙協
る進
明推

若者投票率高めて

公立大「ライツ」委員委嘱

若者に選挙へ関心を高めて
もらおうと、宮崎市明るい選

挙推進協議会は6月26日、宮
崎公立大の選挙啓発サークル
「ライツ」のメンバー15人を

委員に委嘱した。同協議会の
会議に参加するほか、高校で
出前講座などをを行い、投票率
向上などを目指す。任期は2
年。

（久保真一朗）

（22）は「委嘱状を手渡され、
あらためて頑張らないといけ
ないと自覚した。多くの世代
へ投票の大切さを伝えたい」
と話していた。

同サークルは昨年4月に結
成。メンバーのうち5人は既
に委員に委嘱されている。委
嘱式は同大学であり、学生9
人と大学や市選管の関係者が
出席。同協議会の渡部紀南会
長が委嘱状を手渡し、「来年
は宮崎市長選も予定されてい
る。市の代表を選ぶのに30、
40%の投票率は情けない。」



委嘱状を受け取る宮崎公立大のサークル
「ライツ」のメンバー

平成 29 年(2017 年) 7 月 14 日(金)

宮崎日日新聞社提供



歩廊

写真。留学生たちは、興味津々の様子で初めての体験を楽しんだ。

○花をめでる心は万国共通。宮崎市の宮崎公立大で 13 日、外国人留学生を対象にした生け花教室が開かれた。

○韓国、中国、米国ハワイ州出身の男女 16 人が挑戦。小原流県支部連合会長の中村豊葉さん(83)から指導を受け、おぼつかない手つきながらもヒマワリやカーネーションなどを作った。

○ハワイ出身のロッド・ニーチヨーさん(25)は「爆発をイメージした」と、躍動感あふれる作品を披露。中村さんは「みんな違つて、みんないい」と多様性を高く評価していた。

(島田喜恵)

平成 29 年(2017 年) 8 月 6 日(日)

西日本新聞社提供

正しい英語を使い学習 ソフト

公立大で小学生向け教室

外國語の正しい発音をコンピューター技術で評価できる
ことを知つてもらおうと、宮崎市立大は 5 日、宮崎市内の同大学で「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開いた。市内の小学 5、6 年生約 30 人が参加。最新の音声認知

ソフトを使用し、その使用方法や正しい英語の発音などを学んだ。

事業は日本学術振興会(東京)の助成、委託を受け、同大学の言高裕一教授(音声学)が実施。音高を波形データで複数的に捉えられることや、そのデータを最新の音声認識ソフトで評価できることなどを子どもたちにも知つた。

専用のパソコンソフトとマイクを使い、英語の正しい発音を学ぶ児童たちも、実際に音声認識ソフトを使って英語の発音を体験。手本となる英単語の発音を聞いてマイクで発音し、より手本に近いと評価されるまで何度も挑戦する姿が見られた。

恒久小 5 年の太田愛琳さん(11)は「難しかつたけど、英語の発音がよく分かつたので今後の学習に生かそうと思つた」と話していた。

児童らはさまざまな言語を文字で表す国際音声記号についても学習。プログラム終後は全員に修了証が手渡された。

(久保真一郎)



専用のパソコンソフトとマイクを使い、英語の正しい発音を学ぶ児童ら

平成 29 年(2017 年) 10 月 27 日(金)

宮崎日日新聞社提供

宮崎市の宮崎公立大民俗学研究室は、本県在来種など九州 3 県のサツマイモを使った新しいスイーツを開発した。28、29日に開催される学園祭「凌雲祭」で販売し、売上金全額を九州北部の豪雨の被災地に寄付する。

公立大生 学園祭で販売へ



あさつて 売上金 被災地に寄付

同研究室は国内外で古くから栽培される農作物の研究や普及に取り組んできた。これまでも同市の佐土原ナスなどを取り入れた弁当を作り、学園祭で販売してきた。今回は、3年生 7 人が学園祭で販売に挑戦した。県産種の「ヤマダイ」のほか、鹿児島、大分の品種からも選定。イモ本来の風味を生かすために、無糖のスイーツを開発した。

サツマイモお菓子開発

トボテトを考案し、同市跡江の武田製菓(武田和志社長)に製造を依頼した。完成したスイートボテトは、各県のイモの特長を生かして 3 種類(1 個 50 円)。武田社長(64)は「無糖の菓子作りは初めての試み。焼き芋のように、ほくほくした食感に仕上がった」と話す。

田園祭では 2 口間とも講義棟 5 階で販売する。価格は 3

種セット 500 円など。同研究室の永友歩里さん(20)は「あつさりした口当たりでイモ本来の味が分かつてもらえる。健康志向の人にもお薦め」と PR。指導教官の永松教授は「これをきっかけに種を絶やさないためにも、希少品種のサツマイモも製品化したい」と話している。

(中村和彦)

宮崎公立大民俗学研究室が開発した無糖のスイートボテト

平成 30 年(2018 年) 1 月 22 日(月)

宮崎日日新聞社提供

宮崎市長選と同市議補選が告示された 21 日、同市明るい選挙推進協議会と宮崎公立大選挙啓発部「ライツ」、市選挙管理委員会は、同市のイオンモール宮崎で選挙啓発キャラクター「リーダー」と一緒に投票参加を呼び掛けた。

「わたしたちのリーダーは、わたしたちが決める」と書かれたチラシ入りのポケットティッシュとマスクを用意。買い物客らに手渡しながら、「選挙があります」「ぜひ投票に行つてください」と

（坂田翔麻）

学生ら「投票行って」

宮崎市 商業施設で選挙啓発



ポケットティッシュなどを手渡し、投票参加を呼び掛ける宮崎公立大「ライツ」のメンバー=21日午後、宮崎市・イオンモール宮崎

平成30年(2018年)1月28日(日)

宮崎日日新聞社提供

28日投開票の宮崎市長選に关心を持ってもらおうと、市内の大学生が啓発活動に力を入れている。宮崎大では告示前に立候補予定者3人を招いた公開

討論会を開催。宮崎公立大生は啓発チラシの配布に汗を流す。大学生たちは「投票で意見を政治に反映させて」などと訴えた。

若者意見 政治に反映を



宮崎公立大で、投票を呼び掛けるチラシを配る同大学の選挙啓発サークル「ライツ」の3人

2018
宮崎
市長選
きょう
投票
投票

富崎公立大では25日、学生約20人で活動する選挙啓発サークル「ライツ」(池田憲代)の3人が、投票を呼び掛けたチラシ約150枚を学生に配布した。

山本沙織さん(21)と、1年の大橋志織さん(19)。授業が始まる前の約5分間で、市選管が作ったチラシなどを配ると、マイクを握り「選挙は意見を政治に反映させることができる大事な機会」などと投票の重要性を強調した。

チラシを受け取った米盛沙哉さん(20)は「関心は薄かつたが、同年代の呼び掛けを聞いて有権者の責任を果たさないといけないと気が付いた」と述べた。池田さんは「選挙があるから政治について考え、1票を投じて話をしていた。告示前の18日には両大学の宣伝部約20人が企画した公

開討論会が宮崎大で開かれ、市長選の盛り上がりに一役買つた。日程調整や当日の司会進行などを全て学生が担い、主催した団体の共同代表を務めた宮崎大医学部4年の松本健壹さん(22)は「学生に政治へ関心を持つてもらいたかった。一般の方も参加してくれた。争点となっているテーマも知れてよかったです」と話していた。

(竹之下理恵、久保真一朗)

大学生啓発でもり立て